

○議長（堀内春美）

それでは通告１番、１１番 鮫田洋平君の一般質問を行います。

１１番 鮫田洋平君。

○１１番議員（鮫田洋平）

改めまして、おはようございます。新庁舎での一番はじめての一般質問となり、建物に負けないよう、改めて身を引き締めて、神聖な気持ちで質問していきたいと思いますので、最後までよろしく願いいたします。令和３年１２月議会、令和４年６月議会で提案させていただいた、大柳川溪流公園の管理については、今年に入ってから、公募をしていただき、３件の応募があったと聞きました。今後は民間の管理のもと、運営されていくということで、さらなる利用者の増になると思います。また、先月には、増穂小学校の夜間照明のＬＥＤ化の工事も終わり、利用者に喜んでいただけたと思います。今回も提案型の質問を考えました。実現できれば、町にとって相当のプラスになると思っています。提案の内容は、わくわくする企画だと思いますので、前向きな答弁をお願いいたします。

それでは、通告に従いまして一般質問を始めます。今回は一点に絞って質問していきます。簡潔に分かりやすい答弁をお願いいたします。それでは質問事項１まちの魅力、ＰＲ方法について質問をさせていただきます。（１）まず、情報発信の現状では、町民向けに毎月の広報誌の発行、随時発信しているＬＩＮＥがあります。ＬＩＮＥの登録者数も、コロナワクチン接種情報の関係もあり、町民のＬＩＮＥ利用者の７割から８割の方が登録していただいている、効果的に情報発信できていると思います。また、町内外への情報発信としては、昨年からは魅力発信アンバサダーを創設し、昨年はスポーツ部門の委嘱、先月は文化芸能部門の委嘱をし、全国で活躍されている方々が、富士川町魅力を発信していただいているところであります。ＳＮＳのツールとしては、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなどを利用しての、発信をしているところでありますが、フォロワーの数が伸び悩んでいると伺いました。こういった、ＳＮＳを利用している職員の中には、リツイートやシェアなどを行い、さらに、情報を拡散していただいていることも存じております。今の時代だからこそ、ＳＮＳの活用は不可欠であり、町が行なっている情報発信の方法も正しいものだと思います。ＳＮＳを利用している人の中で、影響力のある人をインフルエンサーと言います。インフルエンサーとは世間に対して、大きな影響力を与える人のことを指し、英語で勢力、影響、効果といった意味の、インフランスが由来の言葉とされています。かつて、インフルエンサーと言えば、芸能人やスポーツ選手、ファッションモデルなど、テレビで活躍する人たちを指す言葉でした。ところが、インターネットが普及し、ＳＮＳでの情報交換が活発になったことで、次第に影響を与える一般人もインフルエンサーと呼ばれるようになりました。一般人が、インフルエンサーとして認識されるようになったのは、個人ブログが流行し始めた２００７年頃からと言われています。現在は、ツイッター、ユーチューブ、インスタグラム、ティックトックなど、さまざまなＳＮＳにおいて、影響力を持つ人たちがインフルエンサーとして活躍しております。また、ＳＮＳのインフルエンサーには、それぞれプラットフォームによって呼び名が異なり、インスタグラムはインスタグラマー、ユーチューブはユーチューバー、ティックトックはティックトッカー、ブログはブロガーなどと呼ぶそうです。そこで、

町内外のインスタグラマーなどSNSを利用している人たちが、町の魅力を発信することで、町の更なるPRになると思いますが、当局のお考えを伺います。

○議長（堀内春美さん）

町長 望月利樹君。

○町長（望月利樹君）

まずは、質問の答弁に先立ちまして、この新庁舎の新しい議場でですね、最初の答弁をさせていただきます。我々執行部もですね、2元代表制の一翼を担う立場として、町政推進のため、しっかりと緊張感を持って、答弁をしていくことをお誓い申し上げます。

それでは今の質問に答えさせていただきます。インターネット環境の浸透やスマートフォンやタブレットなどの普及に伴い、SNSの利用は日々の生活に有効なアイテムであると考えております。こうした中、町の観光資源やイベント、暮らしやすさなどを多くの方に発信し、地域活性化につなげていくための情報発信手段として、SNSが持つ拡散力は大きな魅力であると考えております。こうしたことから、手軽に情報発信できるSNSを活用することで、町の認知度向上や、観光客、移住者の増加につながるため、効果的な町のPRになると考えております。以上でございます。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

町でも、いろいろな面で有効と考えているということですので、是非、多くのSNS利用者が、町の魅力を発信していただけるよう、何らかの手段を考えていきたいと思います。そこで、次の（2）の通告を考えました。

それでは次の（2）の質問に移ります。（2）SNSを利用している人たちを活用した、町のPR方法として、全国の自治体での実施事例はありませんが、全国初の「(仮称) 富士川町インフルエンサー選手権大会」みんなの投稿で富士川町をバズらせようの開催を提案いたします。内容としては、インスタグラマーなどのSNSを利用している人たちを集め、町のPR大会をすることです。参加者を募る方法は、ティックトックやインスタなど、無料のSNSを活用し、エントリーしていただき、投稿期間を決めてハッシュタグ富士川町をつけて投稿していただき、いいねやリツイートの総合計で優勝者を決めるというようなものです。得られる効果としては、町内外からの参加者を募り、参加者が多ければ多いほど、まちの魅力の再発見につながることで、また、参加者が多ければ多いだけ、町がPRされ、交流人口の増につながり、町に賑わいや経済効果が見込まれます。例えば期間中だけでも、期間が1週間で、100人の参加者があった場合、宿泊費プラス1日2,000円の消費、掛ける7日間、掛ける100人の経済効果が見込まれるということになります。全国の人に、富士川町を知ってもらうことで、ふるさと納税の増にも繋がります。また、全国に先駆けて、どこの自治体にも実施事例がないため、マスコミなどのメディアで取り上げられ、SNSを利用していない人にも、富士川町を知ってもらえるなど、メリットが多くあると考えますが、仮称富士川町インフルエンサー選手権の大会の開催について、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 早川竜一君。

○政策秘書課長（早川竜一君）

ただいまのご質問にお答えします。多くの人に影響を与えるインフルエンサーの情報発信力を活用し、本町の魅力をPRしていただくことは、インターネット社会において有効な方法であります。こうした中、このようなイベントを開催し、本町の魅力PRをインフルエンサー同士が、それぞれ独自の視点で競い合うことは、話題性もあり、地域活性化につながるものと考えております。こうしたことから、開催に向け検討をして参りたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

開催に向け、前向きな答弁をいただきました。再質問です。開催には、多少の費用がかかると思います。インフルエンサーの区分は、SNSでのフォロワー数が100万人以上の知名度が非常に高いインフルエンサーを、トップインフルエンサー、またはメガインフルエンサー。次に、フォロワー数が10万人を超える人たちは、ミドルインフルエンサー。次に、フォロワー数が1万から10万人ほどのインフルエンサーを、マイクロインフルエンサー。最後にフォロワー数が、約1万人未満の場合は、ナノインフルエンサーに区分されます。説明するまでもなく、フォロワーが多ければ多いインフルエンサーほど、世間に対しての影響があると考えます。そこで、フォロワーの多いインスタグラマーなどの、SNSを利用している人たちの参加には、それなりの魅力が必要だと思います。先ほども得られる効果として提案しましたが、交流人口の増や相当の経済効果が見込まれると思います。大きい成果を得るには多少の費用がかかると思いますが、賞金や商品などの考えについて伺いたいします。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 早川竜一君。

○政策秘書課長（早川竜一君）

ただいまのご質問にお答えします。今後、開催に向けて検討を進めて参りますが、事業の開催方法と詳細をですね、今後、協議していく中で、話題性も含めて懸賞についても、検討して参りたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

ぜひ、多くのインフルエンサーが参加していただけるよう、魅力ある懸賞を考えていただきたいと思います。

次の（3）の質問に移ります。職員に向けて、町長の年始のあいさつの中で、新しいことにチャレンジしてほしいとありました。まさに、新しいチャレンジだと思いますので、SNSを利用している人たちを活用した、町のPRを実施するにあたって、若手職員のスキルアップのためにも、プロジェクトチームをつくり、立ち上げから計画、実行、管理、検証をす

ることができないか伺います。成果が出ることで、今後の仕事のやりがいなり、ほかにも新しいことにチャレンジしようという意欲にもつながると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（堀内春美さん）

政策秘書課長 早川竜一君。

○政策秘書課長（早川竜一君）

ただいまのご質問にお答えします。若手職員のアイデアを生かし、立ち上げから検証までの一連の役割を担うことは、若手職員の育成、意識向上につながるものと考えております。こうしたことから、各課から選出された若手職員を中心に構成された、既存の広報研究会を基盤として、SNS利用者を活用した町の魅力PR施策の検討を行なって参りたいと考えております。

○議長（堀内春美さん）

鮫田洋平君。

○11番議員（鮫田洋平君）

私も勉強不足で、若手職員を中心とした広報研究会が、存在していることを知りませんでした。ぜひ、若手職員の育成のためにも、そういった組織が動いてPR施策が前に進むよう、期待しております。今回の一般質問も、前回同様富士川町の未来を語ろう活性化プロジェクトの参加者からの意見や、町民の意見をもとに質問させていただきました。提案させていただいたような企画ができれば、交流人口はさらに増え、経済効果が得られ、税収の増につながり、最終的には町民への福祉向上につながると思います。前回の定例会でも発言しましたが、SNSや発言力のある方々が、いろんなことを発信することで、伝説になることがありますので、道の駅の恋人の聖地伝説も夢ではありません。また、先日新聞にも掲載されてしまいましたが、農泊のように、計画から大きくずれてしまっている施設などの利用者も増えると思います。ぜひ、みんなの投稿で富士川町をバズらせて、活力ある富士川町を全国、全世界にPRできればと思います。今後も富士川町の未来を考え、提案型の質問をしていきたいと思います。この議場におられます皆様、また、町民の皆さまとともに、アイデアを出し合いながら、これからの富士川町をつくっていききたいと思います。以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（堀内春美さん）

以上で通告1番 11番 鮫田洋平君の一般質問を終わります。

---